

地区社協実施の 給食サービス事業について

山口 弘宣 議員

Q 各地区において、一人住まいや老夫婦世帯に給食サービスを実施することは、見守り活動にも大きく貢献している。しかし、高齢者の増加に伴い、給食サービスの材料費がかさみ、地区社協の運営を圧迫している。市として、事業の重要性を鑑み、地区社協への助成金の増額等を実施する必要があると思つて見解を尋ねる。

A 福祉日本一を目指している大村市としては、幼児から高齢者まで手厚く対応する必要がある。給食サービス事業に対する支援については、市長自ら再度実態をよく把握し、今後、助成額の増額も含めて見直す必要があると思つて居る。

公共施設の 副流煙対策について

伊川 京子 議員

Q 公共施設において、たばこの副流煙が利用者に及ぼす影響を心配する声がある。喫煙場所の点検と対策を考える必要があると

思つてどうか。特に、日常的に人の出入りが多い、コミュニティセンターやさくらホールを含むシーハットについては、全体をひとまとめに考えて喫煙ルームの設置を検討してはどうか。

A 公共施設における副流煙対策については、喫煙場所を変更するなどの対策をとっている。改修にはかなりの経費がかかるため、完全な分煙にはなっていないが、施設の建て替えなどの際に実施したい。また、さくらホールやコミュニティセンター等の喫煙ルームを一つにまとめることについては、入り口が離れているので、どのような形でできるか研究したい。

市立子ども園整備計画 今後の取り組み

伊川 京子 議員

Q 県内初の市立放虎原子ども園が開園して1年が経過したが状況はどうか。また、今後の計画として、大村幼稚園、西大村幼稚園及び三城保育所については、認定こども園への再編統合が考えられており、3つのパターンが示されている。再編整備の今後の具体的なスケジュールと方向性はどうか。

なっているのか。

A 開園後1年の状況については、県内初の公立の認定こども園であったため試行錯誤の中でのスタートであったが、短時間児、長時間児の区別なく質の高い幼児教育等を提供するという本来の目的を実現できたため、保護者からも高い評価を得ている。また、再編整備のスケジュールと方向性については、本年4月から子ども・子育て支援新制度が開始されたため、この動きを十分に見ながら、平成31年度までの整備を目指している。

ねりんピック長崎大会の 安全対策について

城 幸太郎 議員

Q 来年10月に全国健康福祉祭(ねりんピック)が長崎大会として開催され、本市でも卓球やボウリング、ラグビーの3種目が開催される。13チームが参加した5月のラグビーのリハーサル大会では、救急車が3台出動した。出場者が60歳以上であることを考えると、大会規定でヘッドキャップ等の装着を義務付けるべきだと考えるがどうか。

A ねりんピックについては、今回のリハーサル大会で反省点を確認することができ、来年の本大会に向けて、準備を進めていきたい。プレー中の事故については、各地方から来ていただいたにもかかわらず、本市で大きな障害に結び付くなどの事故が起こると、印象もよくないためラグビー協会に防具の着用を強く要望したい。

コミュニティバス

中瀬 昭隆 議員

Q 高齢者の外出は、閉じこもりや要支援、要介護の増加防止につながる。高齢者の外出を促進するためには、乗り換えずに目的地へ行けるバスが必要であり、公共交通体系の抜本的な再構築が重要である。千葉県君津市においては、不採算路線のため公共交通空白地域となった地区にコミュニティバスを導入している。本市においても、低床小型バスを購入し、指定管理者制度でタクシー協会やNPO等に運行委託を考えるべきではないか。

A 高齢者の外出のための小型バス等の移動手段の確保につい